

えんがわ

第49号

2011年4月発行

発行元
衣笠病院グループ
横須賀市小矢部
2-23-1
Tel 046-852-1182

父からの学び

私の父は常日頃、よく「人生五十年、太く短く」と言っていました。お酒が大好きで、美味しい物だけ口にしていましたので、言っていたとおり、五十歳で亡くなりました。

ダンプの運転手をしていた父はいつも酔っぱらって帰ってきました。今でこそ大変な事ですが、車が我が家に辿り着くまで、あっちフラフラ、こっちフラフラ、車のフラフラの様子で父の酔っぱらっている程度を姉、兄と当てっこして、母に叱られました。亡くなったときはショックで、とても悲しく、「もう少しお酒を控えて気をつけてくれ

ば、もつともつと長生き出来たのに、自分勝手なことばかりしているから」と家族みんな、父を激しく責めました。

でも最近、私は、父は自分の思う通りに生き、自分の生き方に責任と意思があつたと感じるようになりました。「何も思い残すことはない」と言い切っていた父。そんな父の生き方から、私が、今後どう生きていくか、学ぶことが多いと深く感じるようになりました。

衣病訪問看護ステーション
長瀬 看護師 山田節子



えんがわ在宅モ びとくがちん 大災害に備えろ

備えろ

今回の大地震では地震と津波と原子力発電所の事故で本当に多くの方が亡くなったり、大変な思いをしたりしておられます。被災地の皆さんの力になりたいと思います。さて、今回の大災害で計画停電が実施されておりますが、在宅療養で停電時の注意する点をいくつかお知らせしたいと思います。

電源を使用するものは使えなくなる場合があります。エアマットには電気が来ていないとつぶれてしまうものもあります。機種によつてつぶれてしまう時間がまちまちです。短時間であれば問題ありませんが、停電の間は二時間に一回くらい体位を変える必要があります。

ります。電動ベッドは動かなくなってしまうので計画停電が分かっている元に戻しておきましょう。吸引器もバッテリーがないものは動かなくなりますので、事前に吸引しておきましょう。在宅酸素の機械は電源がないと止まってしまいますので、ボンベに切り替えます。流量により替えます。ボンベは数時間は持ちます。人工呼吸器は停電時にもバッテリーが数時間持ちますが、手で換気するバックバルブマスクを用意しておくことが望ましいです。

湘南国際村クリニック
医師 大友宣

テレビを毎日見ている居ても立っても居られない気持ちです。被災地が一日も早く立ち直ることが出来ますようお祈り申し上げます。